

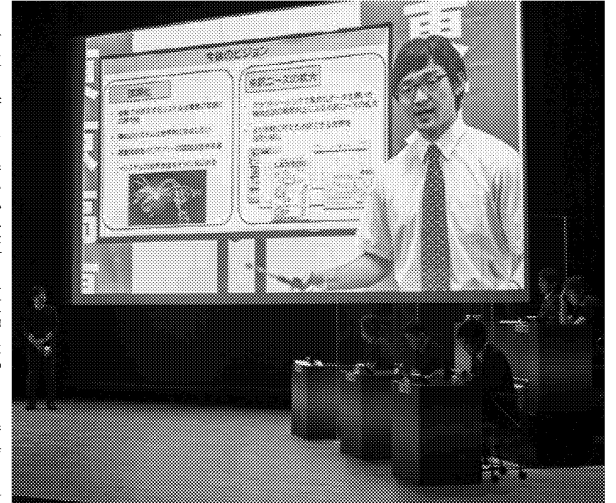
「企業評価額はなんと5億円!」。8月22日、都内で開催された高専生を対象にした事業アイデアコンテスト「全国高等専門学校ディープラーニングコンテスト2020」(高専D CON)。

司会が読み上げたアイデアの評価額に、オンラインの観覧者が集まった。「会場」はざわついた。高専生が日ごろ培った「ものづくりの技術」と人工知能(AI)を組み合わせたビジネスプランの底力が垣間見えた瞬間だった。長期連載企画「高専に任せる」では今回、高専D CONの観戦記をお届けする。

大会は今回が初めて。19年春のプレ大会を踏まえて開催となったが、ご多分に漏れず新型コロナウイルスの影響を受けた。4月の予定だった本戦は3月中旬に延期を決定。関係者は模索を続け、オンラインで8月22日の開催になった。

リモートで自動点字相互翻訳システムのプレゼンテーションをする東京高専の「:::doc (てんどく)」のメンバー

# 事業コンテストで5億円評価 点字翻訳、AIで効率よく



午後3時の開会で、実行委員長の東京大学大学院の松尾豊教授は微妙なあいさつをした。「プレ大会では1位のチームの企業評価額は4億円でした。だが今のコロナの中で集まって作業するのも難しい。(スタートアップの)マーケット全体のバリュも3、4割下がっている。そうした中で高専生の踏ん張りも期待したい」と述べた。高専D CONは、全国の高専と日本の高専教育を導入したモンゴル高専(3校合同)から応募があり、26チームが19年10月の書類審査(1次)を通過した。20年1月の2次審査では試作製品(プロトタイプ)の説明資料とデモ動画を製作して臨み、11チームが本戦に駒を進めた。

### VCの5人審査

本戦は都内の会場と各高専を中継した。6分間のプレゼンテーションで、学生らは技術と事業化のプランを披露。すでに社会実装の実験にも取り組んでいるチームはその模様も紹介した。審査員は5人の著名なベンチャー・キャピタリストたちだ。プレゼンを終えると審査員から様々な角度の質問(3分)に答える。

コンテストの順位は審査員による企業評価額による。同額なら審査員がこの時点で投資したい金額(投資総額)が決め手となる。審査員たちは日ごろの仕事ながら、真剣勝負で評価に挑んだ。結論を先に言うと、トップの5億円という企業

評価額を勝ち得たのは実に3チームもいた。東京工業高等専門学校(東京都八王子市)、鳥羽商船高等専門学校(三重県鳥羽市)、佐世保工業高等専門学校(長崎県佐世保市)だ。

### 松尾実行委員長のあいさつは杞憂(きゆう)に終わった

技術審査員の尾形哲也・早稲田大学理工学術院教授は「ディープラーニングをハードウェアと結びつけ、情報をサイバー世界だけでなくフィジカルでトータルなモデルで考えた提案が多かった」と総括した。トップ3チームの中で投資総額(1億円)が多

### 東京高専は実際の社会生活に役立つ社会実装教育に熱心だ

一人暮らしの高齢者向け安否確認システム、準天頂衛星「みちびき」と駅構内などの点字ブロックに敷設されたRFIDタグで位置を正確に特定する視覚障がい者向けシステムなどを開発してきた歴史がある。今回の点字翻訳を開発したきっかけは昨年、子供が小学校から持って帰る「お便り」を読めな

### 「てんどく」が開発した自動点字相互翻訳システムだった

このチームは昨年の「全国高等専門学校プログラミングコンテスト(高専プロコン)」にプロトタイプを出展。「ICT(情報通信技術)を活用した地域活性化」の課題部門で見事、優勝した。そして今回、視覚障がいに関する製品展示会に出向いたり、視覚障がい者への聞き取りを重ねたりして、ディープラーニング導入の事業アイデアを磨き上げた。

「てんどく」が開発した自動点字相互翻訳システムは、視覚障がい者への聞き取りを重ねたりして、ディープラーニング導入の事業アイデアを磨き上げた。

### 世界共通で商機

「これは現場の声です。点字の形にしないやあとに残りません。音声だと繰り返す聞かないといけません。視覚障がい者の生活習慣や気持ちをよくみ取ったシステムであることが質疑を通じて説得力を増した。ビジネスプランも審査員に腹落ちしたようだった。日本の視覚障がい者すべての発表が終わり、審査員らは企業評価額などを議論した(東京・大手町)。

### 「世界共通で商機」

プレゼンが終わり、審査員の質問が始まると緊張感是一段と高まる。DJキャピタル(東京・千代田)の河合将文氏が「点訳ではなく、音声化する解決策もあるので、これは一段と指摘すると、学生らは即座に答えた。「これは現場の声です。点字の形にしないやあとに残りません。音声だと繰り返す聞かないといけません。視覚障がい者の生活習慣や気持ちをよくみ取ったシステムであることが質疑を通じて説得力を増した。ビジネスプランも審査員に腹落ちしたようだった。日本の視覚障がい者すべての発表が終わり、審査員らは企業評価額などを議論した(東京・大手町)。」

### 「これは現場の声です」

「これは現場の声です。点字の形にしないやあとに残りません。音声だと繰り返す聞かないといけません。視覚障がい者の生活習慣や気持ちをよくみ取ったシステムであることが質疑を通じて説得力を増した。ビジネスプランも審査員に腹落ちしたようだった。日本の視覚障がい者すべての発表が終わり、審査員らは企業評価額などを議論した(東京・大手町)。」

「これは現場の声です。点字の形にしないやあとに残りません。音声だと繰り返す聞かないといけません。視覚障がい者の生活習慣や気持ちをよくみ取ったシステムであることが質疑を通じて説得力を増した。ビジネスプランも審査員に腹落ちしたようだった。日本の視覚障がい者すべての発表が終わり、審査員らは企業評価額などを議論した(東京・大手町)。」

### 「これは現場の声です」

「これは現場の声です。点字の形にしないやあとに残りません。音声だと繰り返す聞かないといけません。視覚障がい者の生活習慣や気持ちをよくみ取ったシステムであることが質疑を通じて説得力を増した。ビジネスプランも審査員に腹落ちしたようだった。日本の視覚障がい者すべての発表が終わり、審査員らは企業評価額などを議論した(東京・大手町)。」

### 「これは現場の声です」

「これは現場の声です。点字の形にしないやあとに残りません。音声だと繰り返す聞かないといけません。視覚障がい者の生活習慣や気持ちをよくみ取ったシステムであることが質疑を通じて説得力を増した。ビジネスプランも審査員に腹落ちしたようだった。日本の視覚障がい者すべての発表が終わり、審査員らは企業評価額などを議論した(東京・大手町)。」

### 「これは現場の声です」

「これは現場の声です。点字の形にしないやあとに残りません。音声だと繰り返す聞かないといけません。視覚障がい者の生活習慣や気持ちをよくみ取ったシステムであることが質疑を通じて説得力を増した。ビジネスプランも審査員に腹落ちしたようだった。日本の視覚障がい者すべての発表が終わり、審査員らは企業評価額などを議論した(東京・大手町)。」

「これは現場の声です。点字の形にしないやあとに残りません。音声だと繰り返す聞かないといけません。視覚障がい者の生活習慣や気持ちをよくみ取ったシステムであることが質疑を通じて説得力を増した。ビジネスプランも審査員に腹落ちしたようだった。日本の視覚障がい者すべての発表が終わり、審査員らは企業評価額などを議論した(東京・大手町)。」

### 「これは現場の声です」

「これは現場の声です。点字の形にしないやあとに残りません。音声だと繰り返す聞かないといけません。視覚障がい者の生活習慣や気持ちをよくみ取ったシステムであることが質疑を通じて説得力を増した。ビジネスプランも審査員に腹落ちしたようだった。日本の視覚障がい者すべての発表が終わり、審査員らは企業評価額などを議論した(東京・大手町)。」

### 「これは現場の声です」

「これは現場の声です。点字の形にしないやあとに残りません。音声だと繰り返す聞かないといけません。視覚障がい者の生活習慣や気持ちをよくみ取ったシステムであることが質疑を通じて説得力を増した。ビジネスプランも審査員に腹落ちしたようだった。日本の視覚障がい者すべての発表が終わり、審査員らは企業評価額などを議論した(東京・大手町)。」

### 「これは現場の声です」

「これは現場の声です。点字の形にしないやあとに残りません。音声だと繰り返す聞かないといけません。視覚障がい者の生活習慣や気持ちをよくみ取ったシステムであることが質疑を通じて説得力を増した。ビジネスプランも審査員に腹落ちしたようだった。日本の視覚障がい者すべての発表が終わり、審査員らは企業評価額などを議論した(東京・大手町)。」

情報工学科4年の板橋竜太君だ。松本氏が「社長を引き受ける覚悟はありますか」と聞くと、板橋君は「はい。このサービスは長い時間をかけて作ってきたので、面倒を見ていただきます」こきっぱり返答。企業価値を支える人材面の評価も固まった瞬間だった。

「はい。このサービスは長い時間をかけて作ってきたので、面倒を見ていただきます」こきっぱり返答。企業価値を支える人材面の評価も固まった瞬間だった。

「はい。このサービスは長い時間をかけて作ってきたので、面倒を見ていただきます」こきっぱり返答。企業価値を支える人材面の評価も固まった瞬間だった。

「はい。このサービスは長い時間をかけて作ってきたので、面倒を見ていただきます」こきっぱり返答。企業価値を支える人材面の評価も固まった瞬間だった。

「はい。このサービスは長い時間をかけて作ってきたので、面倒を見ていただきます」こきっぱり返答。企業価値を支える人材面の評価も固まった瞬間だった。

「はい。このサービスは長い時間をかけて作ってきたので、面倒を見ていただきます」こきっぱり返答。企業価値を支える人材面の評価も固まった瞬間だった。

「はい。このサービスは長い時間をかけて作ってきたので、面倒を見ていただきます」こきっぱり返答。企業価値を支える人材面の評価も固まった瞬間だった。

「はい。このサービスは長い時間をかけて作ってきたので、面倒を見ていただきます」こきっぱり返答。企業価値を支える人材面の評価も固まった瞬間だった。

「はい。このサービスは長い時間をかけて作ってきたので、面倒を見ていただきます」こきっぱり返答。企業価値を支える人材面の評価も固まった瞬間だった。

「はい。このサービスは長い時間をかけて作ってきたので、面倒を見ていただきます」こきっぱり返答。企業価値を支える人材面の評価も固まった瞬間だった。

「はい。このサービスは長い時間をかけて作ってきたので、面倒を見ていただきます」こきっぱり返答。企業価値を支える人材面の評価も固まった瞬間だった。

「はい。このサービスは長い時間をかけて作ってきたので、面倒を見ていただきます」こきっぱり返答。企業価値を支える人材面の評価も固まった瞬間だった。

「はい。このサービスは長い時間をかけて作ってきたので、面倒を見ていただきます」こきっぱり返答。企業価値を支える人材面の評価も固まった瞬間だった。

「はい。このサービスは長い時間をかけて作ってきたので、面倒を見ていただきます」こきっぱり返答。企業価値を支える人材面の評価も固まった瞬間だった。

「はい。このサービスは長い時間をかけて作ってきたので、面倒を見ていただきます」こきっぱり返答。企業価値を支える人材面の評価も固まった瞬間だった。

「はい。このサービスは長い時間をかけて作ってきたので、面倒を見ていただきます」こきっぱり返答。企業価値を支える人材面の評価も固まった瞬間だった。

「はい。このサービスは長い時間をかけて作ってきたので、面倒を見ていただきます」こきっぱり返答。企業価値を支える人材面の評価も固まった瞬間だった。

「はい。このサービスは長い時間をかけて作ってきたので、面倒を見ていただきます」こきっぱり返答。企業価値を支える人材面の評価も固まった瞬間だった。

「はい。このサービスは長い時間をかけて作ってきたので、面倒を見ていただきます」こきっぱり返答。企業価値を支える人材面の評価も固まった瞬間だった。